

# 子どもたちの「笑顔」に会いに行く

一般財団法人第一生命財団による「待機児童対策・保育所等助成事業」は、2019年度で第7回を数えた。

2019年11月に行われた審査会では、全国168件の応募の中から、

厳正な審査の結果40件、総額3000万円（申請額）の助成を決定した。

今回はその中の一つ、都市の中心部にありながら、充実した保育環境を実現し、

子どもたちの心身の育成に励む大阪市のこども園を訪ね、その取り組みについてお話を伺った。

取材・文：斎藤夕子 photo：坂本政十賜

## 大阪府大阪市 あけぼのほりえこども園

### 多彩な遊びから、子どもたちの主体性を育む

#### 129年の歴史を引き継ぐ

大阪市の都市部に、2019年4月に開園した「あけぼのほりえこども園」。前身は堀江小学校と同敷地内で明治23(1890)年から歴史を刻んできた大阪市立堀江幼稚園で、同幼稚園が民間移管される形で、公私連携幼保連携型こども園として移転・新設された。

旧幼稚園の園児も受け入れるあけぼのほりえこども園は、定員298名の大規模こども園だ。こども文化センター

跡地を利用した園の敷地面積は1837㎡に及び、このうち1070㎡以上が園庭として整備されている。近隣には大阪市立中央図書館などの文化施設や土佐稲荷神社に連なる土佐公園などの緑地も多く、都会ながらも閑静な雰囲気が漂う、恵まれた環境にある。同園を運営する学校法人あけぼの学園は、1953年より大阪府豊中市で幼稚園の運営を開始し、以来、豊中市内で7施設の幼稚園・こども園・保育園を運営し

てきた。あけぼのほりえこども園は8施設目にあたり、初の大崎市での開園となる。

「大阪市による堀江幼稚園の民間移管先募集を受け、結果、私たちの法人が選定されました。選ばれたからには、これまで私たちが実践してきた幼児教育や保育のノウハウを最大限に生かし、また、徹底的に保育環境を充実させようと園舎の設計に取り組み、園庭の遊具や家具にもこだわり抜きまし



●広々とした園庭。画面奥の大型遊具が吉野の銘木を用いてつくったオリジナルのアスレチック。その右手には鉄棒で遊ぶ子どもの姿も



●冬でも裸足で、元気に走り回る子どもたち



●室内には、狭く囲まれた空間が随所に設けられている。静かに本を読んだり、考えごとをしながら、内面が育っていく



左●壁いっぱい黒板になった空間では存分にお絵描きが楽しめる



右●台形の机は組み合わせ次第でさまざまな形に変化。状況に応じて使い分けができる

た。それだけに開園時には手が回らなかった備品もあり、今回の助成に応募させていただいたんです」

経緯について、あけぼのほりえこども園長はそう教えてくれる。

#### 子どもたちの主体的な遊びをサポート

同こども園がもっとも重視しているのが「非認知能力の育ち」だ。つまり、読み書きや計算力のように数値化して認知しやすい能力ではなく、好奇心や探究心、友だちとの関係を通して学ぶ社会性のような内面的な力の発達だ。その評価基準として、アメリカで開発された保育環境評価スケール「ECERS」を取り入れ、園舎の間取りや家具、遊具の配置を行い、静と動の遊びを区別するなどの取り組みを実践している。また子どもたちには「本物」に触れてほしいとの思いから、園庭に設置された大型遊具は奈良県吉野市の銘木を用い、木の質感を生かしたアスレチックをオリジナルで作成した。エントランス付近にさりげなく置かれた火鉢も信楽焼で、正月明けにはここで



●普段は絵本部屋として利用されている、多目的スペース「シリアウカフェ（ポレポレ）」

炭を起こし、子どもたちと一緒に鏡開きのお餅を食べたのだそうだ。

今回、助成で導入したのは、ままと遊びに使う小型のちゃぶ台や鉄棒の他、おもちゃ収納用の棚、図鑑や絵本など。数台導入したちゃぶ台は、少し囲まれたスペースに配され、子どもたちの「静の遊び」として、自分なりの物語を紡ぎながらごっこ遊びを行う場を形成している。一方、鉄棒は「動の遊び」をサポートする遊具だ。安家園長は「そもそも、手で鉄棒を握ることが子どもたちには難しい。さらにどうやって体を持ち上げて遊ぶことができるのか、体を動かしながら考えていく。子どもの心身の成長にとって、鉄棒はとても役立ちます」とその役割を教えてくれる。

「園庭は、わざとでこぼこにしています。もちろん、でこぼこの園庭では転んで怪我をしてしまう場合もありますが、私たちの園では、遊んで怪我をすることも〈子どもの権利〉だとして、保護者の皆さんにもご理解いただいています」

園庭の築山は、頂上到手押し井戸が設置され、水を流せるようになっている。登頂するには階段状の段差を登らなければならないが、その段差は「子どもの体でちょっと苦労するくらいの高さ」にしてあるとか。これにより、

年齢に合わせたチャレンジ精神を育み、登れた時の達成感が子どもの心身を成長させてくれる。なかには入園時にはまっすぐ立っていることさえできない子もいるが、でこぼこの園庭で存分に遊んでいるうちに、いつの間にか体幹が鍛えられ、体つきがしっかりしてくるそうだ。

#### 街と共に未来を拓く

長年、地域と共に歩んできた旧堀江幼稚園の歴史も受け継ぐだけに、あけぼのほりえこども園でも、地域との交流は重視している。毎日午後には、「お昼寝見守り隊」と称する地域の方々が園に訪れている他、同園の入り口付近には「シリアウカフェ（ポレポレ）」と称する、多目的スペースも設置されている。普段は園児の絵本の部屋だが、今後は地域の方々の子育て支援や多世代間の交流イベントの場としても活用の幅を広げていく予定だ。また、園歌も旧堀江幼稚園の歌を引き継いでおり、地域の人に喜ばれているという。「地域の方々をつながりながら、この街の子どもたちの育成拠点として、旧幼稚園に負けない歴史を刻んでいきたいと思います」と安家園長。子どもたちの元気な声と明るい笑顔は、この街の未来そのものだ。



●安家園長